

担当 《 理 科 》

武蔵野市立第五小学校

<p>学力調査と学校経営方針からみた授業改善の方向性【言語活動の充実】</p>	<p>各教科等における言語活動の充実を中心とした指導の実際</p>
<p>《学力調査から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」は高い意欲があり、「交流」を活用するとよい。 ○「身の回りのことをグラフや表で整理して考える」活動を各教科で推進する。 ○「分からないことや興味をもったことを進んで調べる」活動などを発展的な学習に入れる。 <p>《言語活動の充実に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体験から感じ取ったことを表現する ②事実を正確に理解し伝達する ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする ④情報を分析・評価し、論述する ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる <p>《言語活動の指導の在り方》</p> <p>(1)知的活動(論理や思考)に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実を正確に理解し、他の人に的確に分かりやすく伝える ○事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる <p>(2)コミュニケーションや感性・情緒に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの存在についての理解を深め、尊重していく ○感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりする 	<p>○学習の見通しと学習の振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業のはじめに、「今日の学習」につながるこれまでの学習を振り返り、ポイントを絞った発問を投げかけ、児童の言葉で説明させる。 ・授業の中やノート記述の際には、「問題」「予想」「実験」「結果」「考察(分かったこと)」「まとめ」といった項目を決めておき、それらを継続的に使っていくことで、学習の見通しをもたせる。 <p>○言語環境を整える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中の「問題(課題)」について「予想」を立てる際に、これまでの経験や実験などで見たり感じたりしたことなどを想起させ、自分の言葉で発表する機会を作る。 ・発表の際には、「はい」「～です」「～と思います」など、丁寧な言葉を使うよう繰り返し指導を行う。教師自身が授業中に質疑応答で使う言葉も丁寧に話すよう気を付ける。 <p>○自分の考えをもたせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業時間内で多くの児童に「あなたは、どう思いますか」という投げかけをして、色々な思考のパターンや発表する時に使う話型のパターンなど、友達の発表を聞きながら学ばせ、自分の考えを自分の言葉でまとめて発表できるように、チャンスを多く作る。自分で考えを組み立てる上で、情報や知識を広げられるよう、パソコンでの調べ学習を取り入れ、課題意識を持って問題解決に向かえるようにする。 <p>○言語活動の具体的な工夫</p> <p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題」「予想」「実験」「結果」「分かったこと」「まとめ」といった言葉を使い、単元の学習のパターンを示す。 ・実験では、多くの児童から、自分の経験から考えることや、これまでの授業で学んだことなどをあえて発表させ、全体で確認させることにより、 ・発表の際には、丁寧な言葉で考えをまとめられるように、教師側も、言葉を付け足したり、要約したりして支援する。 <p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの単元でも、これまでの学習とのつながりを意識させる発問をしながら、全体で意見を出し合わせ、新しい課題意識が持てるようにする。 ・理科室では、実験を行った後の考察において、一人一人が十分考え意見交換できる場を設ける。 ・中学の学習への期待がもてるよう、学習単元から派生する事柄などにも触れ、自由に話し合える時間も作る。